

1月17日「学校防災の日」 阪神淡路大震災から25年

1月17日は25年前に阪神・淡路大震災が発生した日でした。午前5時46分にマグニチュード7.3、最大震度7の大地震が発生し、6434人が死亡しました。

高鍋町はこの日を「学校防災の日」としており、東中では2校時に一斉に避難訓練を行い（机の下に避難）、昼の放送では阪神・淡路大震災の状況について話を聞いたり、防災や減災について改めて考えたりしました。

1月17日の宮崎日日新聞の記事を紹介します。



祖母に救われた命大切に

「あの時、右手を引き抜いたからおばあちゃんには亡くなかった」。二五年前前中学三年生だった富田めぐみさんは、神戸市灘区の祖母（当時七十二）宅のアパートで生活していた。一月十七日の早朝、祖母と二人で並んで寝ていた部屋に地響きが鳴り響き、体が浮くほどの揺れが襲った。

祖母が富田さんに覆いかぶさり、抱き合うような形で生き埋めに。身動きができず、顔の周りの空間で何とか呼吸した。祖母の頭を抱えていた富田さんの右手の上にながれきが重なり、めりめりと音を立てて重さがのしかかった。祖母の頭がだんだん地面にめり込んでいく。「めぐ、苦しい」。おばあちゃんの声はやがて聞こえなくなった。

「右手を引き抜いて隙間を作れば、おばあちゃんも助かるかも」。三十分以上かけて自分の右手を引き抜いた。「ドン」。支えを失ったがれきが祖母の頭の上に崩れた。

「どこかでおばあちゃんも死を感じた。」と富田さん。彼女が救助されたのは四時間半後。「私が右手を抜かなければおばあちゃんも生きていたかもしれない」と自分を責める気持ちは年月が経っても薄れず、富田さんの右手は激しくけいれんするようになった。

転機は二〇〇七年。長男出海（いずみ）君（十一）の出産だ。「この子に会うために生きてきた」と思った。ある日、深夜に起きた小さな地震でとっさに隣に寝ていた息子に覆い被さった。「おばあちゃんも同じ気持ちだったのかな」。それ以降右手の震えは少しずつ消えていった。

昨年一月、小五の出海君が「これママのことちやうの」と学校の道徳の教科書を持ってきた。二十年ほど前に出版社に話した経験が今も掲載されていた。最近では出海君が九歳と五歳の弟に「ママのおばあちゃんの話」を伝えている。

「おばあちゃんがつないでくれた命。大切に精いっぱい楽しく生きような」。思いは三人の息子に引き継がれている。

東中生 文武に活躍

高鍋町読書感想文

優秀作品集「白梅」に掲載

- 入選：岩切 咲樹(1年) 兵藤 晴彦(1年) 矢野 愛華(1年)
 清水 流唯(2年) 岩切 七樹(2年) 大平 さくら(2年)
 石黒 星那(3年) 末吉 舞華(3年) 横尾 美沙希(3年)

高鍋町読書感想画

- 金賞：内藤 比奈(1年) 野津手 桃花(2年) 河野 成樹(3年)
 入選：日高 聖輝(1年) 平原 雄琉(1年) 兒玉 季音(1年) 齋藤 心咲(1年)
 吉田 亘太郎(1年) 脇田 和希(2年) 谷口 小晴(2年) 徳島 彩(2年)
 兒玉 光(2年) 大窪 日花里(2年)
 勢井 大悟(3年) 桑野 菜月(3年) 黒木 詩音(3年) 原田 さくら(3年)
 富田 紗希(3年)



ジュニアJスコラズニューイヤコンサート 1月13日

- イタリア歌曲独唱 黒木 翔(3年) 茂又 優梨花(3年) 佐藤 瑛祐(3年)

第10回宮崎県市町村対抗駅伝競走大会 町村の部(22チーム出場)

- 高鍋Aチーム：準優勝 3区(3.3km) 河野 圭志(3年) 10分27秒
 6区(3.7km) 三枝 千洋(1年) 11分48秒
 サポート：伊藤 陽斗(2年) 妹尾 美佑(1年)



宮崎県地区別対抗団体戦選考会大会 中学生男子

- 優勝：高鍋東中 平原 伍朗・平川 幹大 ペア

第2回中学生軟式野球選抜大会in南那珂

- 第3位：西都児湯地区中学校選抜チーム 水口 廉也 森下 謙信(高鍋東中)